

# 飛び出せ 学校

## 大分高小学生新聞

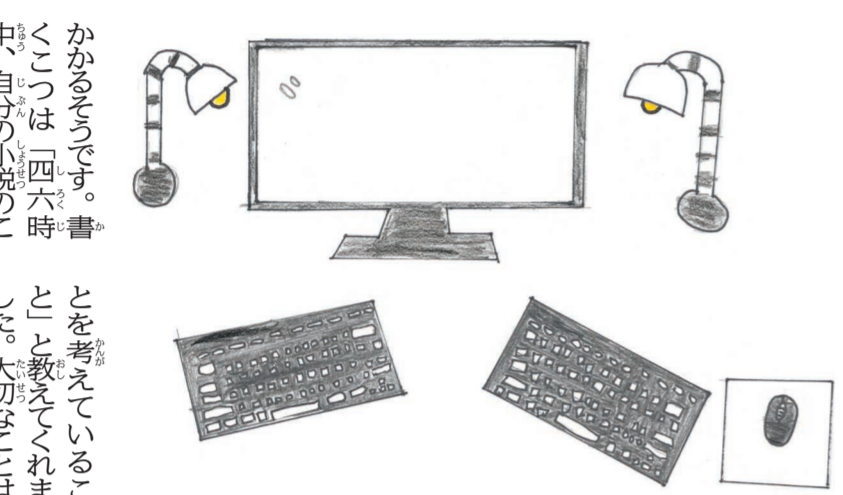
発行者  
九重町  
東飯田小学校  
6年生

この新聞は、九重町東飯田小学校の6年生(金井麻理教諭)16人が、大分合同新聞社の記者と一緒に作りました。

私たち6年生は、職業について調べています。調べていく中で九重町にもいろいろな仕事をしている人がいることが分かった。取材をする中で、地域のために働く人がいることや、地域の良さを生かした仕事があることを知ることができました。ぜひ読んでください。



わたしの先輩作家さん  
私たちが通っている東飯田小を卒業した小説家の城崎さん。ペンネームは「ペン」です。九重町に取材したとき、城崎さんは「隣のキミであつたが、いっしょに」(1、2巻)と「ペン」を愛用している。1、2巻と「ペン」を愛用している。1、2巻と「ペン」を愛用している。



仕事にはパソコンを活用しているという城崎さん。誤字脱字がないか確認すること、相手が一度読んだだけで、自分の伝えたいことが分かってもらえないような文章を作ることなど、作家として活動するために必要なことを教えてくれました。大切なことは、自分の小説の

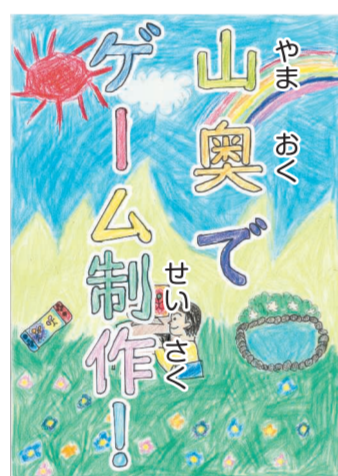


私たちは、九重町にある宝八幡宮の禰宜をして、玖珠町のレストランのシェフもしている申斐大史さん(41)＝顔写真＝に取材をしました。1300年前から続いている宝八幡宮の37代目として、跡継ぎとして決まっていたこと、申斐さん自身も小さい頃からなりたいと思っていたこともあり、神職の道に進んだそうです。この仕事は、人と人をつなげることで

す。ほかに神事や祈願、おはらいをしています。2019年11月、玖珠町のJR豊後森駅前のレストラン「プラスリーエスト！」はオープンしました。赤色のドアが目印の店です。地元産の食材を使ったコース料理のランチと、ディナーを提供しています。レストランは申斐さんと奥さんの二人で営んでいます。シェフの仕事は料理をすること、奥さんはマダムとして、接客や料理を運んでいます。食中毒やお酒を飲むことが好きで、その場所や楽しい空間を共有したいと思い、店を始めた



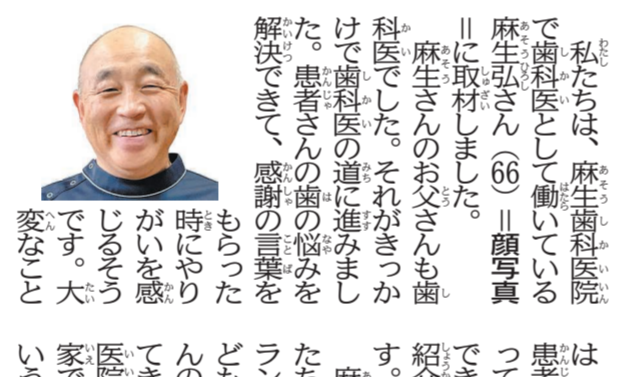
申斐さんが働く宝八幡宮(左)とレストラン「プラスリーエスト！」



弘津健康さん(46)＝顔写真＝は「サマータイムスタジオ」というゲーム制作会社を営んでいます。本社は沖縄県にあり、支社を九重町飯田に開きました。会社の仕事は、常にパソコンと向き合う仕事なので、社員の疲れの取れる温泉がある九重町に本社を移設しました。温泉(げーま)という名前を付けたのは、ゲーム制作で「一番大変なこと」は、アイデア



施設にある温泉で疲れを取りながらゲーム作り。ゲーム制作は、コンピュータゲームのソフトやアプリを作る人のこと。ゲーム制作で「一番大変なこと」は、アイデアを考へていくこと。味を持ち、視点を変えて見ると、新しいアイデアを考へることができるといいます。



私たちは、麻生歯科医院で歯科医として働いている麻生弘さん(66)＝顔写真＝に取材しました。麻生さんのお父さんも歯科医でした。それがきっかけで歯科医の道に進みました。患者さんの歯の悩みを解決できて、感謝の言葉をもらった時にやりがいを感じます。大変なことです。麻生さんは、九重町の人たちのためだけでなく、ボランティアでネパールの子どもから大人まで、たくさんの方の歯の悩みを解決してきました。現在は、麻生さんが経営しながら、奥の家の「カフェチャイカ」という店を開いています。このカフェは、いろいろなメニューがあり、お茶や手作りのお菓子を提供しています。取材をして、麻生さんのように自分の仕事以外にもいろいろなことに興味を持つ、両立する働き方があることが分かりました。たくさんの方の悩みを解決しているのを聞き、私たちが将来、たくさんの方の役に立てるような仕事につきたいと思いました。



「医院では治療が難しい患者さんの時」とおっしゃっていました。この病院でできない治療は他の病院へ紹介状を書いて送っています。麻生さんは、九重町の人たちのためだけでなく、ボランティアでネパールの子どもから大人まで、たくさんの方の歯の悩みを解決してきました。現在は、麻生さんが経営しながら、奥の家の「カフェチャイカ」という店を開いています。このカフェは、いろいろなメニューがあり、お茶や手作りのお菓子を提供しています。



私たちが作りました

## 新聞ができるまで

### 九重町東飯田小

## 働く面白さ、大変さ知る

九重町東飯田小学校は田んぼに囲まれ敷地内には児童が遊べる小山があるなど、自然豊かな場所に位置する。6年生16人は地域で働く人々を知ろうと、「将来の夢」をテーマに取材に挑戦。4班に分かれ、仕事の面白さや大変さを探った。取材を前に、大分合同新聞社玖珠支店の姫野直也記者(32)に記事の書き方や話を聞く際のポイントなどを学んだ。児童は教わった「記者の七つ道具」を参考に、名刺と腕章を自作。電話で取材のスケジュールを調整し、現場へ向かった。



◎記者から取材するときの心構えなどを学んだ(5月20日) ◎九重町で働く人たちに話を聞いた(7月7日) ◎1人1台端末も使いながらグループで見出しを考えた(10月28日)

町内松木の宝八幡宮で禰宜をしながら玖珠町でレストランを営む申斐大史さん(41)には、仕事の両立を選んだ思いについて質問。東飯田小を卒業した小説家の城崎さん＝ペンネーム＝からは、文章を上手に書くコツなどを聞いた。どちらも自分たちが知らないことが多く、新たな発見

を急いでメモした。九重町内右田の麻生歯科医院では、麻生弘さん(66)に仕事のやりがいや教わった。取材した児童は「将来、大勢の人たちの役に立てるようになりたい」と気持ちを新たにしました。九重町飯田に支社を置くゲーム制作会社「サマータイムスタジオ」(本社・沖縄県)にも訪問。弘津健康社長(46)を取材し、ゲームに関わる楽

しそうな仕事でもさまざまな苦労があることを知った。取材後、大分合同新聞社ニュース編集部(50)の山田直彦記者(50)から見出しやレイアウトを学んだ。

この企画は小学生(主に5、6年生)が、地域の魅力や課題を取材し、新聞にまとめる作業を通して古里を見詰め直すことを目的としています。問い合わせは大分合同新聞社地域連携室「飛び出せ学校」係へ。☎097-538-9729、Eメールnie@oita-press.co.jp



新聞づくりの様子をご覧ください